

Safe Volu

(Former First Aid)

静岡県赤十字安全奉仕団機関紙 No.67 平成19年11月5日発行

「第3ブロック支部合同災害救護訓練」の報告

10月23日(火)・24日(水)、掛川市のつま恋を会場に「日本赤十字社第3ブロック支部合同災害救護訓練」が開催されました。この訓練は、第3ブロックの各支部(愛知・三重・岐阜・長野・富山・石川・福井県)と神奈川・山梨各支部が参加し、8年に一回当番県として開催地が回ってくるものです。

今回は、駿河湾を震源とする突発型地震を想定し、救護班集結・通信訓練、災害対策本部設置運用訓練、医療救護訓練(dERU設置含む)、広域血液搬送訓練、ボランティア本部設置運用訓練等が実施され、本団からは5人の団員が訓練参加しました。参加した団員からは、次のとおり報告がありました。

「今回の訓練は、気温14℃という肌寒い中で始まりましたが、ボランティア本部の設置が終了する頃には風もなく、薄着での活動が心地よく感じられました。本部開設後は、ボランティアセンターでの手続方法や保険、活動時の注意などの説明がありました。救護班が集結訓練を含んだ内容であったため、団員は救護班集結までは待機となり、その時間で集結する訓練車両(dERU、救急車など)を見学することができました。また、日本や海外の被災地で活動した方々の貴重な体験談を聞く事ができました。

その中でも、海外の災害時支援団体であるFEMA(米国の連邦緊急事態管理庁)の活動に驚くと共に、日本の災害医療の在り方や危機管理、DMAT(災害医療派遣チーム)について深く考えさせられました。

今回は2会場で3基のdERUが設置されましたが、開催地静岡のdERUは、15分という短時間で設営が完了しました。その後の医療救護訓練では、救護班との連携がうまくいかず、負傷者を不安にさせる活動となってしまいました。これは、救護所の中に全体を調整するコーディネーターが機能していないことに起因していると、強く感じました。

訓練の目的であった「知識と技術の習得」に関しては、参加者各自で達したと思いますが、「連携・協力を図る」事に関しては、多くの課題が残ったように思います。「協同」とは、心と力を合わせ、助け合って事を成すことであり、今後は、この課題を一つ一つ具体化していくべきではないかと感じました。」

(訓練・研修部会)

「大道芸ワールドカップ in 静岡2007」が閉幕！！

～本団の活躍により四日間の大会が「安全」に経過～

11月1日から4日までの間、静岡市内を会場として「大道芸ワールドカップ in 静岡2007」が開催され、連日多くの観客で会場内が賑わいました。今年は昨年よりも少ない観客数となり、4日間で181万人でした。本団からは延べ50人近くの団員がボランティア救護に協力し、実行委員やパフォーマーと楽しい時間を過ごしました。協力していただいた団員さんからのアンケート集計結果は、来月号に掲載し、この活動の総括をいたします。

(イベント救護部会)

「今月の眼(見た)、耳(聴いた)」は紙面の都合で掲載できませんでした、お詫び申し上げます。